

様式 4

令和 7 年度第 3 回 富士見市産業振興審議会 議事録						
日 時	令和 7 年 9 月 3 0 日（火）		開会 午後 1 時 3 0 分 閉会 午後 3 時 4 5 分			
場 所	富士見市役所 2 階 第 2 会議室					
出 席 者	委 員	猪瀬会長	西本副会長	門脇委員	大曾根委員	平岡委員
		○	○	○	○	○
		秋元委員	浅見委員	寺沢委員	飯塚委員	高野委員
		欠	○	○	欠	○
		岡固委員	太田委員	柳委員	小栗委員	世羅委員
		○	○	○	○	○
	事 務 局	経済環境部 本多部長 産業経済課 齊藤課長、長根副課長、鶴田主査、柳川主任				
	委託業者	株式会社ぶぎん地域経済研究所 2 名				
公 開 ・ 非 公 開	公開（傍聴者なし）					
議 題	(1) 地域別商業者懇談会の意見について (2) (仮称) 富士見市都市産業活性化ビジョンの骨子（案）などについて (3) その他					
議 事 内 容						
	1 開 会 （齊藤課長） 2 会長あいさつ （猪瀬会長） 3 議 題 (1) 地域別商業者懇談会の意見について 【質疑等】 会長：地域別懇談会について、各商店会からの参加者のバリエーションは多かったのか。					

担当：地域ごとで異なるが、様々な業種の参加をいただく地域もあった。

委員：多様な働き方の項目で、業務委託するという話が出たようだが、うまくマッチングできる仕組みがあるとよいと思う。

会長：経営・創業相談の際、アドバイザーの方で相談者同士をマッチングするということもできるのではないか。

委員：業務委託について、SNSを活用する時間もノウハウもない事業者が多い。そこに学生の力を借りられれば良いと思うので、市が商店会と学生を結び付けられるとよい。

委員：新しく商工会会員になった人をアピールできないかと考えている。SNS作成・ビデオ動画を作る会社の社長と話す機会があったので、そういうサービスを行っている社長に地域活性化研究会に加盟してもらい、アイデア出しをしてもらおうと考えている。地域のために、まちの情報を集約するセンターの役割を担う場所の検討が必要だと考える。

会長：他市の例では、大学の研究室や教授がしっかりマッチングに力を入れているため成功している。富士見市も大学と連携協定を締結していると思うが、研究室単位で連携できないか。

また、意欲のある事業者を支援するという今回のビジョンの基本的な考え方があると思うが、事業者側としても情報発信の重要性を学んでいく必要がある。事業者を育てるという前段の取組として、商工会も積極的に動けるとよいと考える。そういったことが、計画に書き込まれればよいのではないか。

担当：市では、淑徳大学、女子栄養大学、日本薬科大学、跡見学園大学と包括協定として広い分野で連携協定を結んでいる。その中で、商業の分野に関しては、商業及び観光に関する事項として位置付けられており、この包括協定の活用をビジョンに落とし込められればと考えている。

会長：地域別懇談会や、本審議会が出た意見について、具体的事例としてビジョンに記載できるとよいと考える。

（２）（仮称）富士見市都市産業活性化ビジョンの骨子（案）などについて

【質疑等】

会長：骨子（案）と目次（案）の説明があったが、目次（案）にある「ビジョンの推進に向けて」において、計画の振返りを行うためのPDCAサイクルについて記載が必要と考える。また、施策の展開を記載する箇所では、骨子（案）が全て網羅的に書かれるわけではないが、取組方針ごとに目的や説明が記載されると思われる。例えば、情報発信の箇所で地域別懇談会に出ている「デジタルサイネージ」というキーワードなど、具体的な事例として記載があるとよい。

委員：不動産情報発信について、市内での創業の問合せは多いと感じるが、店舗の空きがないことが多く、駅前の新築物件の場合は賃料

が高いため、ニーズに合わないという現状がある。
空き家バンクについては、物件を有効活用したいという方と安く借りたいという人をマッチングするものであり、不動産業者としては利益があまり出ないため積極的な参入とならない。
創業者が富士見市に出店したいと思ってもらうためには、地域のキーワード化というアイデアがある。例えば、「ららぽーと富士見通り」など道路に命名できれば、その通り名だけで店舗の立地が消費者にすぐ伝わる。「すぐわかる」という価値が生まれ、出店意欲につながるのではないか。近年、「キーワード」がとても重要であり、生成A I がオンライン上の地名などキーワードを情報として拾い上げるので、情報発信の際には大切だと思う。

委員：埼玉県の渋沢M I Xに行って会員登録をしてきたが、さいたま新都心という立地から、登録事業者は県東部地域が多い。自治体も登録すればオブザーバーとして参加可能とのことであり、様々な情報を収集できるので、富士見市にも活用を検討してほしい。
また、コト消費やふるさと納税返礼品について、商店会も巻き込んだイベント開催や、びん沼自然公園でのパークゴルフ、バーベキューなど検討できるのではないか。

担当：本計画においても渋沢M I Xの活用と連携を位置付ける予定としており、今後、相談をしていきたい。また、びん沼自然公園の利用券は、既に返礼品として扱っている。市としても、様々な返礼品について庁内の各所管課と連携して検討したい。

委員：冊子のページ数の想定はどの程度となるのか。また、フォントはこれ以上小さくならないようにしてほしい。

担当：現行冊子は100ページ程度となっており、今回も同程度を予定している。現行冊子はアンケート結果の分量を多く掲載していたが、今回は必要な結果を精査し記載したい。フォントについては、見やすいサイズを維持したい。

委員：QRコードやダイジェスト版も検討するとよい。

委員：情報の周知について、経営・創業相談や補助金制度を知らない人が多い。ふるさと祭りなどのイベント会場で周知する、創業パネル展を「ららぽーと富士見」で開催するなど工夫をしてほしい。
多様な働き方ができる企業として好事例があったら発信するのも良い。他自治体では、年に1回補助金の説明会を開催しているところもある。

委員：宅配サービスの情報提供について、高齢者だけでなく、子育て世帯向けに意識して情報発信するのも良いのではないか。

担当：市では子育て応援サイトを運用し、子育てに関する情報発信を行っている。そのような情報発信を活用して、商業とつなげるという意見があったと庁内で共有したい。

委員：ファミリー層に向けて、地域での消費を行うことが地域活性化につながる。例えば、学校の校舎が新しくなるなど、地域経済循環

やSDGsの観点でも重要であるとアピールするのもよい。

会長：今回のビジョンの中でも商店会支援を位置付ける予定であるが、商店会側も自主財源をどう生み出すか、どう経営改善をするかという計画書を作るなどの支援を骨子に含まれている。補助金に頼るだけでなく、自立的な運営が必要であるということを商店会側にも理解していただきながら、商店会の活性化をどう取り組むかということをビジョンの中に位置付けていく必要があると考える。

委員：先日、県担当者と話した際、県として新たな補助制度があると同ったが、そのような情報が入ってこない。

会長：県の地域振興センターによっては、商店会支援の専門がいなくてころもあり、商店会への直接の働きかけに差があることもあると思われる。現行ビジョンでも、県との連携について記載はあったかと思うが、推進体制で記載が必要である。

委員：現行ビジョンは、コロナ禍の影響もあったかと思うが、ビジョンの達成度合いや浸透度合いがわからないままだった。ビジョンの中で、商店会に向けた提案があるとよい。

委員：商店会によっては、会費を低額に抑えている組織もあり、資金不足となっている。例えば、地域の住民をサポートとして収入を得る、イベントごとに商店会の利益を上げてプールしていくなど、運営資金を増やす仕組みが必要である。

会長：補助金がないと運営できないというのは、組織として不健全と感じる。イベントの出店料を徴収するほか、所有する街路灯にバナーフラッグをつけて広告料を徴収する方法なども考えられる。冊子の「ビジョンの推進に向けて」の中で、商店会の取り組みとして、自主財源を作り出す必要性も示していくとよいと考える。

委員：商店会としてバナー広告について検討したこともある。富士見市はベッドタウンであり、税収における法人税の割合も4%と低いということは、広告を出せる事業者も少なく、ニーズも少ないので、難しい部分があると感じている。

委員：富士見市はベッドタウンであり、専門店・個人店の活性化が大切である。生活に必要な産業をより充実させていくことがよいと考える。

会長：市の支援を受けて創業した方は、何名程度いるのか。

担当：平成29年度から令和6年度までの実績として、累計32名となっている。上位計画である第2期基本計画では、令和12年度の目標値として累計100名としている。

委員：様々なイベントにおいて、行政がボランティア証明書を発行することで参加者のモチベーションも違う。朝霞のストリートテラスなど、市が発行している事例がある。

会長：地域活動のインターンシップを地域団体で受け入れるということ

を市が発信することも検討できないか。

委員：個店では、インターンシップの受け入れの負担は大きく難しい。
市が仕組みを作るのはどうか。

委員：大学は、インターンシップにより単位として認定するところがある。単位がもらえるのであれば学生は頑張れる。熟知した場所で働きたいという意識も芽生えるのではないか。

委員：イベントを実施した際、素晴らしい学生とつながることができたが、一方で、無償ボランティアというだけでは、なかなか人が集まらない現実がある。ボランティア証明書や単位など、学生を引き付ける仕掛けは必要である。

会長：大学の教授が授業の一環として、興味のある学生に研究テーマを与えながら行っているから熱心に取り組めるが、そうでないと中身がないものとなることもある。大学側のサポートも必要である。

委員：成功事例として、ゼミの先生がしっかりと入って、学生が街のコンシェルジュとして地域の中で役割を担っている。そのつながりで、地元での就職にもつながっている。

委員：市の創業支援を受けて創業したが、支援内容は素晴らしいと感じた。一方で、創業支援の存在に気付かないケースが多く、わかりやすい窓口、情報発信が必要と感じた。また、創業時に困ったのは不動産探しであり、空き店舗がなく苦戦した経験がある。

委員：宅配電話帳は、町会と連携してほしい。

会長：本日の意見を冊子作成の参考としていただきたい。

（３）その他

- ・第４回（次回）審議会の開催日程
令和７年１０月２８日（火） 予定

４ 閉 会 （西本副会長）